



マッチングの結果発表

平成22年10月28日14時、来年度採用予定研修医のマッチング結果が公表されました。本院関連のプログラムは、25名(定員60名、マッチ率41.7%)とマッチングが開始された平成15年からの8年間で最も少ない人数という残念な結果でした。現在、原因と対策を分析中ですが、6年生へのアンケート調査では、佐賀大学附属病院を第一希望とした人、出身地の大学病院を希望した人、出身地の研修病院を希望した人、出身地以外の研修病院を希望した人、それぞれ約20%でした。当院のマッチングの書類や面接の手続きが少し煩雑であるとの意見が聞かれましたので、来年に向けて手続きの簡素化を検討しています。

佐賀大学では、昨年10月に新卒後臨床研修センターを開設し、コミュニケーショントレーニング、スキルトレーニングなど、さまざまな教育企画を行っております。本年8月には、卒後臨床研修評価機構の外部評価も受け、認定証を頂きました。佐賀大学以外の学生へのアピールが不足しているのではないかと、という声も聞かれましたので、研修改善への努力を続けることだけでなく、情報発信も行っていききたいと思います。また、最近のマッチングでは5年生の期間が大きな意味を持ちますので、教員、医師の皆さまにおかれましても、臨床実習中の指導を通じて佐賀大学附属病院の魅力を生徒に伝えていくことが非常に重要であると考えられます。

(江村、吉田)

佐賀大学医学部附属病院関連初期臨床研修プログラム マッチング結果(プログラム別)

プログラム名称	定員	マッチ者数	空き定員
プログラムA1 (好生館/佐賀大学)	6	6	0
プログラムA2 (佐賀大学/好生館)	6	4	2
プログラムB1 (聖マリア/佐賀大学)	2	0	2
プログラムB2 (佐賀大学/聖マリア)	2	0	2
プログラムC2 (佐賀大学/佐賀病院)	2	0	2
プログラムD1 (唐津日赤/佐賀大学)	2	0	2
プログラムF2 (佐賀大学/高木病院)	2	2	0
プログラムG2 (佐賀大学/嬉野)	2	1	1
プログラムH2 (佐賀大学/社保)	2	1	1
プログラムI (佐賀大学/佐賀大学)	26	26	0
小児科特別プログラム	2	2	0
産科特別プログラム	2	2	0
全プログラム合計	56	44	12

本院のマッチ状況の推移

	定員 (人)	応募者 (人)	中間公表	マッチ数 (人)	マッチ率 (%)	自校出身者 (人)	自校出身者 (%)	全国平均 (%)
平成15年度	56	87	36	52	92.9	49	94.2	71.5
平成16年度	56	74	38	50	89.3	48	96	65.4
平成17年度	56	88	22	34	60.7	29	85.3	64.4
平成18年度	56	72	27	36	64.3	36	100	64.6
平成19年度	56	77	38	49	87.5	48	98	65.8
平成20年度	56	69	30	44	78.6	42	95.5	65.8
平成21年度	56	79	35	44	78.6	40	90.9	65.9

エコアクション21 医学部の取組

佐賀大学では環境問題に積極的に取り組む姿勢として、エコアクション21(EA21)の認証を取得し省エネ省資源対策や環境教育に取り組んでいます。具体的な取り組みとして、CO₂排出量(電気、ガス、重油使用量)、廃棄物排出量、水使用量の削減に向けて、削減目標と活動計画の策定(Plan)、計画の実施(Do)、取り組み状況の確認・評価(Check)、全体の評価と見直し(Action)というPDCAサイクルを回しています。また研究機関では、化学物質管理も求められます。病院の屋上の太陽光パネルの設置やLED電球、廊下やトイレ照明の人感センサーの設置もその一環です。

認証取得から3年目の中間審査が、12月8日より3日間行なわれました。医学部も8日午後から9日にかけて審査を受けました。今回は審査人が昨年から新たな方にかわったことから、医学部全体を概観していただきました。学部長、病院長、看護部長のインタビューに始まり、中央診療棟手術部、検査部、放射線部、材料部、薬剤部における医療廃棄物処理、放射線、滅菌ガス、薬剤管理や省エネの取組を見ていただきました。その後、廃棄物保管庫における一般廃棄物、医療廃棄物、実験廃液管理や、RI棟におけるRI廃棄物、動物棟における動物廃棄物の保管状態を見られました。また、総合分析実験センターでは、実験室の実験試薬の管理システムの紹介がなされました。9日には、中央機械室で医学部におけるエネルギー関連設備の視察が行なわれ、引き続き関連書類の審査や学生委員会のインタビューも行われました。病棟も2箇所ほど訪問し、師長から廃棄物、温湿度管理の状況が説明された後、職員に抜き打ちでのインタビューが行われましたが、省エネの取組に関して十分な受け答えをされていました。以上の審査の結果、医学部では特に問題とされる点はありませんでした。しかし今年の夏は、猛暑であり病棟の冷房時間の大幅な延長もあり医学部全体としても、昨年と比べエネルギー使用量が増加している現状です。環境対策と病院内での快適さをどう両立させるかも今後の大きな課題です。

今回の医学部の審査では、皆様のご協力により、良い評価を得ることができました。(市場正良)

教育広報部会

小田康友、池田豊子、市場正良、吉田和代、
江村正、藤田君支、本間治

ご意見をお待ちしています(oday@cc.saga-u.ac.jp)

